

日交研シリーズA-629

平成 26 年度自主研究プロジェクト

我が国における LRT 導入時の課題に関する研究

刊行:2015 年 8 月

我が国における LRT 導入時の課題に関する研究
A Study on Influence of LRT on Population Changes in European Various Cities

主査：森本章倫（早稲田大学理工学術院教授）

Akinori MOMIMOTO

要 旨

新たな公共交通システムとして LRT（次世代型路面電車システム）の導入の必要性が叫ばれて久しいが、わが国においていまだにその整備は遅々として進んでいない。その背景にはわが国の法制度上の問題がある一方で、事業者や行政上の課題または市民の意識高揚など、地域固有の問題も多く存在する。ここでは、わが国の都市が抱える共通の問題点を浮き彫りにすると同時に、導入予定の各地域が抱える課題を様々な視点から捉え、公共交通再生に向けて将来展望を得ることを目的とする。

本研究は、海外都市の分析と国内都市の分析の 2 つのステップを踏んだ。

第 1 ステップとして、LRT 導入の先進都市として欧州に着目し、文献調査や WEB 調査をもとに、現在の LRT の導入状況を整理し、導入において指摘されている課題をまとめた。その結果、地域の独自性があるものの、一定の共通見解を検討することができた。特に LRT 導入が人口変化に与える影響を定量的に把握した。次に欧州で LRT とまちづくりの連携が進んでいるドイツを取り上げ、その特徴と課題を整理した。ここでは、既存の鉄道の LRT 化や共存、経営状況、不正乗車の実態あるいは事故の現状などを整理した。

第 2 ステップとして、わが国で唯一 LRT が導入されている富山市を対象に、導入時の課題や今後の展開についてヒアリング調査等から把握した。鉄道を路面電車化する際の取り組みについて当時の状況を把握し、事業採算性や利害関係者との調整、市民との合意形成についてとりまとめた。次に、わが国ではじめて新規路線として LRT 導入を進めている宇都宮市を対象に、公共交通ネットワークの構築における課題を分析した。特に、バスと LRT の連携についてシミュレーションを行い、その課題を明らかにした。

本研究を通じて、日本に LRT を導入する際の問題として①財源確保の問題、②既存事業者との調整、③市民合意における課題を指摘した。

キーワード：LRT 人口 コンパクトシティ GIS

Keywords：LRT Population Compact City GIS